

はじめに

今年の日本列島は、大雨による水害、土砂災害、地震災害、台風による風害等各地で次々と災害に見舞われ、自然の猛威を改めて突きつけられた年でした。国土強靱化と言われて久しいですが、今年 of 自然災害を目の当たりにして、我々建設業に何が求められているかを考えさせられる年でもありました。また我々の労働環境に眼を向けると、建設業界のみならず、将来へ向けての慢性的労働力不足が懸念されており、「生産性向上」、「働き方改革」は喫緊の継続的課題となっています。このような社会的背景に加え、環境への配慮も求められており、世界共通目標である SDGs (Sustainable Development Goals) への取組みも含め、弊社では様々な研究テーマ、技術プロジェクトテーマを立ち上げ実施しています。その成果の一部を、このたびフジタ技術研究報告 No.54 として発刊することになりました。

今回の報告では、産業廃棄物の再資源化技術、建設工事現場での動植物の保全技術、トンネル発破音低減技術など環境系の研究 3 編。早期災害復旧を目指したインテリジェント施工技術、AR 技術の基礎的研究、トンネル入坑管理での顔認証技術など情報系の研究 3 編。土質基礎構造、コンクリートの充填性など土木系の研究 2 編。超高層構造技術、プレキャストコンクリート柱構造技術、タイル剥離診断技術など建築系の研究 4 編、計 12 編の論文を掲載しています。これらテーマは、すべて弊社の重点課題である、「生産性向上」、「省力化、省人化、工期短縮」そして持続可能な社会の実現を目指す「環境方針」に則したものとなっています。

これら研究成果を積極的に現場に適用し、技術改良、新たなニーズの発掘等ブラッシュアップを継続していくことで、更に高品質な成果を目指していきます。

皆様におかれましては、このフジタ技術研究報告をご高覧いただき、本報を少しでも皆様のお役に立ていただければ幸いです。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

2018 年 12 月

株式会社フジタ 執行役員 技術センター所長 組田 良則